

## 令和元年度学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	特1	学校名	茨城県立盲学校										学校長名	奥岡 智博				
教頭名	御子柴 和之										事務(室)長名	大和田 稔						
教職員数	教諭	51	養護教諭 栄養教諭	2	常勤講師	4	非常勤講師等	3	実習教諭 実習助手等	4	寄宿舎 指導員	15	事務職員	4	技術職員等	10	計	96
幼児・ 児童・ 生徒数	部		1年(3歳児)		2年(4歳児)		3年(5歳児)		4年		5年		6年		合計		合計 クラス数	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
	幼稚部		0	0	0	0	0	0							0	0	0	
	小学部		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	6	8	8	
	中学部		2	0	2	2	2	0							6	2	5	
	高等部	本科	普通科	1	3	2	1	0	1							3	5	4
			保健医療科	0	0	0	0	0	0							0	0	0
専攻科		保健医療科	3	0	4	0	2	0							9	0	3	
		理療科	2	4	0	3	1	1							3	8	3	

## 2 目指す学校像

- ◆ 安全・安心な学校
- ◆ 生きる力を育てる学校
- ◆ 明るく活気のある学校
- ◆ 保護者・地域から信頼される学校

### 3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別の教育支援計画，個別の指導計画，年間指導計画等の見直しを行い，さらなる個に応じた指導の充実を図っている。</li> <li>・ 教科，領域係会の充実と，授業研究やICT機器を活用した授業実践に取り組み，指導力向上に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科，領域係会のさらなる充実を図り，年間指導計画や個別の指導計画を生かした教科等の指導力向上を推進する必要がある。</li> <li>・ 外部研修会の利用や専門性研修の内容を工夫し，さらなる専門性向上に努める必要がある。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全マップの見直し改善，水戸駅，赤塚駅における定期的な通学指導を通し，登下校時の安全確保に努めている。</li> <li>・ いじめに関するアンケート，いじめチェックリストの実施，関係者による情報共有の徹底等により，いじめや問題行動の未然防止に力を入れて取り組んでいる。</li> <li>・ 生徒会関連の行事や委員会，部活動の運営方法や内容等を見直し，児童生徒が自主的に活動できるよう指導している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の実態や通学方法等の変化に応じ，安全マップの更新や定期的な通学指導を継続していく必要がある。</li> <li>・ 児童生徒の自己肯定感，規範意識の向上を図り，いじめ，問題行動の未然防止の強化のため，今まで以上に，各部，教科領域等と連携を密にとりながら進めていく必要がある。</li> <li>・ 生徒会関連行事の運営方法や内容について，引き続き見直しをする必要がある。</li> </ul>
進路指導	<p>保護者のニーズに合った情報提供ができるよう，進路だよりの年間5回発行を目標に，重複課程，大学進学，一般就労，理療科関係，校内情報とまんべんなく情報提供を行っている。また，他県の盲学校の進路状況について紹介している。</p> <p>本校職員向けの進路研修において，現状や制度等をわかりやすく説明し，児童生徒の今後についてイメージしてもらえるように努めている。</p> <p>職場見学や福祉施設見学を積極的に行い，視覚障害の理解啓発に努めた。新規での現場実習先や就労先開拓に結び付いた。</p>	<p>キャリア教育の実態表について，他校の実態表等を参考にして見直しを行う必要がある。表の中の単なる文言を変えるだけではなく，専門的な考えや意見を聞きながら，また最近の進路状況や生徒の障害構成等を分析し，幼児児童生徒の実態に見合ったものを検討していきたい。それには，視覚障害教育の専門家やベテランの教師が必要になるため，作成担当も十分に検討する必要がある。</p>
センター的役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校公開，地域巡回相談会，研修会等を実施し，視覚障害に関する理解推進や関係機関との連携を図っている。</li> <li>・ 定期学習支援や通級指導教室に在籍している学校へ出向き，助言指導や情報提供を行っている。</li> <li>・ 外部講師の講演会を実施し，教職員の視覚障害教育の理解推進に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 盲学校や視覚障害教育支援センターについて理解，啓発活動を実施しているが，なかなか広く周知されていない。年度始めに関係機関へリーフレットを配布したり研修会等に積極的に参加したりして，効果的，効率的な情報発信が行われるような広報活動を展開していくように努力していく。また，ますます多様化してきた幼児児童生徒に対し，</li> </ul>

・多様化する幼児児童生徒に対し、校内支援の充実を図るとともに事例によっては、関係機関との連携を行っている。

各部と連携して校内支援の充実を図るようにする。

## 4 中期的目標

- 1 一人一人の発達段階や教育的ニーズに応じた教育を行うための指導体制，指導方法，指導内容の工夫や研究及び専門性の向上に努める。
- 2 健康な身体や豊かな心を育成するための健康増進や体力向上，自然体験や社会体験等を通じた人間性・社会性の育成に努める。
- 3 地域や関係機関等のニーズに応じたセンター的機能を発揮するための専門性の向上（校内支援の充実等）に努める。

## 5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標	
安全・安心な学校づくり	小学部	・児童が安心して楽しく進んで活動できるよう，児童の実態に応じた教室環境，学習環境の整備に努め，日常生活の中で継続的な安全，防災教育を進める。
	中学部	・学習環境や生徒の使用する教材，教具の整備とともに，生徒同士の間関係の変化等への配慮をとおして，安全かつ安心して学校生活を送れるようにする。
	高等部	・生徒一人一人の障害の程度や実態を鑑みた学習環境並びに教室環境等を整え，それぞれが目標に向かって励むことができるよう支援の充実に努める。
	寄宿舎	・セルフサポートプログラムを活用し，児童生徒の実態に合った指導を計画，実践することで，基本的生活習慣の確立および自立のための生活スキルの獲得を目指す。
授業力・専門性の向上 (構想力と実践力)	小学部	・小学校との情報交換を積極的に行い，主要教科を中心に児童個々の学び方を把握したうえで，教材，教具を工夫しながら効果的な指導に努める。
	中学部	・個々の障害の程度や学び方の特性に基づき個別の指導計画を作成し，教科の専門性にたって作成した教材，教具を効果的に活用しながら個に応じた授業実践を行う。

	高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科における特性を踏まえた指導法を継承し、生徒一人一人の障害の状態や学びの特性に配慮しながら、必要な指導課題を考え、創造的な授業づくりに努める。</li> </ul>
自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年に応じた基本的な生活及び学習習慣が身につくよう、家庭との連携を強化し、自主的、主体的に行動できる態度を育成する。</li> </ul>
	中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>中長期的な視野に立った課題を明確にし、個々の生徒が獲得した知識技能や得意な面を生かした指導をとおして、社会参加に対する意欲とともに自立のための基礎を培う。</li> </ul>
	高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>普通科では、視野を広げ、社会性を養うための体験学習や集団活動の充実に努め、問題解決能力を高められるような様々な課題に積極的に取り組む。</li> <li>理療科では、校内外の臨床実習の充実に努め、施術者としての知識、技能の向上を図るとともに、健全な職業生活を営む能力と自信を持たせられるようにする。</li> </ul>
豊かな心や健やかな体を育む教育の推進	小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団活動や交流活動を充実させ、発達段階に応じた自己理解、他者理解を促し、協調性や社会性の向上に努める。</li> </ul>
	中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>獲得した知識や技能を他者との関わりをとおして体験的に学べる学習に積極的に取り組めるようにすることで、健全で社会性豊かな心身の成長を育む。</li> </ul>
	高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的なケース会議や生徒の実態、障害の状態に関する情報交換を積極的に行い、生徒一人一人の将来を見据えたニーズに応じた支援に努めながら、自活能力の自覚を与え、健全な人生観と将来に対する希望を持たせられるようにする。</li> </ul>
早期教育、通級指導教室の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>養育支援、就学支援の推進</li> <li>在籍校等への情報提供や指導助言の充実</li> <li>サテライト教室の充実</li> </ul>	
外部への情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPの充実や学校公開等による理解啓発の推進</li> <li>関係機関への積極的な働きかけによる理解啓発</li> <li>P T A、親の会、同窓会等と連携した活動の推進</li> </ul>	
センター的機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の支援体制やケース会議等に関する指導助言の充実</li> <li>視覚障害、見え方に関する困難さへの積極的支援</li> <li>専門家と連携した支援の充実と相談スキルの向上</li> </ul>	

